

■こたえ

- 一 1 おし
- 2 いぬ
- 3 はな
- 4 しろ (い)

二

- 1 王 才 甲 才
- 2 才 才 十 才

- 3 才 才 才 才

- 4 ペ ッ ト ボ ト ル

- 5 ア イ ネ タ リ 才

三

- 1 た く き ん の 才 を は 才 才 才 才 才 才 才 才
- 2 き 才 く 才 才 や 才 才 才 才 才 才 才 才

- 3 才 才 才 才 才 才 才 才

■かんが 考え方

三 文しようを よむ ときには、だいじな ことばや 文を さがしながら よむ ように します。

取り組んでみよう!

■ つぎの えを 見て かん字を かきましよう。



が



が

こたえ

(く) 鼻 こ

(ら) 首 才

■正答

- 一 1 (1) ウ (2) ア (3) イ

- 2 (れい1) ひもをとおしてむすべば
(れい2) ひもをとおしてむすぶと

※「ひもをとおしてむすぶ」とせつ明していて、「できあがりです。」につながるように書かれていれば正かいです。

- 二 1 ① (れい1) 出っぱりを引っかける

(れい2) プラグをぬけにくくするため

- ② (れい1) いらぬい水を外に出す

(れい2) ねをくさらせない

※文しようちのことばをつかかっていて、「たぬにあいている。」につながるように書かれていれは正かいです。

- 2 出なくなつてしまふ

■考え方

- 一 1 せつ明してゐるじゆんじよを考へることが大切です。

- 2 【2のれい】のぬいようで【3のれい】にまだ出てきていないのは⑤なので、⑤を「できあがりです。」につながるようにかえて書きます。

- 二 1 それぞれのあなが、どのようなくわりをしてゐるのかを、考へながら読むことが大切です。

取り組んでみよう!

■ 次の——線部のカタカナを、漢字でていねいに書きましよう。

- 1 おチャを のむ。

- 3 きつねの オヤコ。

- 2 アタマを つかう。

- 4 アサが 来た。

答え

睡 ヲ 去 睡 巳 睡 乙 孝 ↓

前年度問題（第一回）国語 小四

【児童用】

■正答

- 一 1 (1) オ (2) ウ (4) カ

2 前の文の終わり

よ	う	に	見	え	ま	す
し	ゃ	く	と	り	虫	を

後の文の始め

- 二 1 イ

2 (例1) (わたしは、) 一 (つ目の文章をえらびました。なぜなら、) 朝ごはんはエネルギーになり、食べないと体がだるくなるということが分かるからです。(四十字)

(例2) (わたしは、) 一 (つ目の文章をえらびました。なぜなら、) 朝ごはんを食べると、体温が上がり、午前中を元気にすごせることが書かれているからです。(四十二字)

(例3) (わたしは、) 二 (つ目の文章をえらびました。なぜなら、) 朝ごはんを食べなかった人の方がほけん室にたくさん来ているということがつたわるからです。(四十三字)

(例4) (わたしは、) 二 (つ目の文章をえらびました。なぜなら、) 朝ごはんを食べなかった人の理由が分かると、自分の生活を見直すことができると思っただからです。(四十五字)

※えらんだ文章とその理由とのつながりが分かり、条件に合っていれば正答とします。

■考え方

一 1 (1)の話題は、この説明文で何について説明するかをしようかいつするまとまりです。

多くのまとまりに「きたい」という言葉が出てくることから、「ここでは、「きたい」について話題にしていることが分かります。(2)の問いは、問いかけている文をさがすことや、文末の「くでしよう。」からも見つけることができます。(4)の事例②は、事例①のしゃくとり虫のほかにくわしく説明しているものをさがすと、カマキリについて書かれていることが分かります。

2 つなぐ言葉のことを「接続語」といいます。「接続語」には、さまざまな種類があるので、それぞれの働きによって使い分けることが大切です。また、文末の書き方についても、前後の文の文体に注意して書くようにします。

二 1 題名やさい後のまとめなど、二つの文章の同じところに注目して、大森先生がもつとも読み手につたえたかったことは何かを考えることが大切です。

2 「二つ目の文章」では「朝ごはん」と「エネルギー」、「体温」との関係について、「二つ目の文章」では、「ほけん室に来た人」と「朝ごはん」との関係についてのことが取り上げられています。どのようなことを取り上げると、つたえたいことがよくつたわるのか、自分の考えをもつことが大切です。

前年度問題（第一回）国語 小五

【児童用】

■正答

一 1 A はくぶつかん B ねっしん

2 C 意味 D 期待

3 E イ F ア

4 ウ

5 ④

6 (例1)

（「さわっておどろく」とは、）しよつかく 触覚のそんざいをわすれていたと気づく、
ねむっていた力を発見する体験をすること。（三十九字）

(例2)

（「さわっておどろく」とは、）いろいろなものにさわる中で、ねむって
いた力を発見するといった体験をすること。（三十八字）

(例1)

（私は、筆者の体験や考えを読んで、）しよつかく 触覚と視覚をどちらも使うことが
大切なんだと思った。（二十五字）

7 (例2)

（私は、筆者の体験や考えを読んで、）「さわっておどろく」体験をして
ねむっている力を発見したいと思った。（三十三字）

A みやぎけん

B けんこうしょく

二 1 わたしは、おみやげとしても人気の「ささかまぼこ」をおすすめします。

(三十三字)

2 エ

3 クとケ (完全解答)

4 (例1)

魚のすり身には、たんぱくしつがたくさんふくまれています。たんぱく
しつは、体作りに役立つ栄養そです。（四十九字）

(例2)

魚のすり身には、健康な体作りに役立つ栄養そであるたんぱくしつがた
くさんふくまれています。（四十四字）

■考え方

一 6 筆者の考えを読み取るときは、筆者がどのような事例によって考えを具体化して
いるのかをとらえることが大切です。

一 7 自分の考えを書く時は、文章を読んで理かいたことについて、自分の体験や今
まで学習した内容を結びつけて書くことが大切です。

二 4 伝える相手や目的に合わせて書くことや、必要なことを整理し、伝えたいことを
はっきり書くことが大切です。また、自分の考えとそれをささえる理由や事例との
関係が分かるように書くことが大切です。

前年度問題（第一回）国語 小六

【児童用】

■正答

- 一 1 しょうたいじょう 2 けわ（しい） 3 こころぎ（す）
- 二 1 合唱 2 目標 3 残念
- 三 1 ウ 2 ア 3 ウ
- 四 1 ウ

2 （例1）チームの協力が大切な遊びだということです。

（例2）チームの協力が大切な遊びなので、クラス全体の仲が深まるということですよ。

3 （例1）（また、）ソフトバレーボールのようなやわらかいボールを使えば、安全に楽しめます。（三十五字）

（例2）（また、）ボールが当たってもいたくないよう、やわらかいボールを使えばいいと思います。（三十七字）

五 1 イ

2 （例）和菓子を作る職人たち

3 一九九五年

4 （例1）（和菓子ははじめ、日本の文化は、）どんな歴史や文化と関わりがあるか、どんな人がそれを支えているかを考える（ことで受けついでいくことができる。）（三十五字）

（例2）（和菓子ははじめ、日本の文化は、）歴史や文化との関わりや、それを支えている人のことを考える（ことで受けついでいくことができる。）（二十八字）

■考え方

四 2 相手に自分の提案を受け入れてもらうためには、提案する理由をはっきりさせることと、提案する内容が実現することができるような具体的なものであること、提案を行動に移したときにどのようなよいことがあるのかを明らかにしながら書くことが大切です。

また、説得力を持たせるために、反対意見への対応を考えて示すなど、書き方を工夫してみましよう。

五 4 要旨をまとめるには、文章の重要なところを正確に読み取り、求められている分量や表現の仕方などに合わせてまとめることができるようにすることが大切です。